

令和5年度 多摩市立諏訪中学校 学校評価書

学校教育目標	
未来を切り拓く諏訪中生 意欲 共生 健康	
目指す学校像(学校経営ビジョン)	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒・保護者・地域から信頼される学校 ・自主性や協調性を育み、個性を発揮できる学校 ・生徒の自己実現に向けて、一人一人に向き合い、粘り強く指導する学校 	
目指す子供像	目指す教師像
<ul style="list-style-type: none"> ・自ら学び、探究し、課題を解決しようとする人 ・豊かな心を持ち、自他を尊重する人 ・心身ともに健康で、社会に貢献できる人 	<ul style="list-style-type: none"> ・豊かな人間性と思いやりのある教師 ・子供の良さや可能性を引き出し伸ばすことができる教師 ・組織人として積極的に協働し相互に高め合う教師

Ⅰ 自己評価結果と学校関係者評価の状況

(1) 確かな学力の育成

重点目標	・学習指導の充実			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
授業のねらいを明示し、ICT機器を活用した振り返り活動を行う活動を80%	2	55%の先生が実施している。プリントに記載する方法も入れると、100%になる。振り返り活動がより充実する指導計画を立てる。	B	評価項目一つ目の自己評価は「3」が妥当ではないか。授業でもICTを活用している。二つ目は、周囲から賞賛いただいているようなので、達成できているのではないか。
子ども未来会議で、周囲から賞賛いただける提言をする。	3	1～3年、5組をまとめた発表をし、周囲から賞賛いただいた。施策に反映してもらえる内容にしておく。	A	
評価のまとめ	重点目標を達成するための項目として、教科ごとの学びに向かう力を育成するには、振り返り活動は必要である。この点が不十分なので、指導と評価の一体化を目指して、評価計画にこの点を入れていく。また、ESDに関わる総合的な学習の時間を更に充実させていく。			

【評語について】

自己評価			学校関係者評価	
評語	達成状況	成果指標	評語	自己評価の適切さ
4	申し分なく達成した	90%以上～100%	A	適切である
3	おおむね達成した	70%以上～90%未満	B	おおむね適切である
2	やや下回った	40%以上～70%未満	C	適切でない
1	大きく下回った	40%未満	D	評価は困難である

(2) 豊かな心の育成

重点目標	・より良い生徒同士の人間関係の育成			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
いじめの解消率を100%	1	7件をいじめとして認知し、2件は解消、5件が指導済みで、経過観察中。今後も継続して取り組む。	D	一つ目の項目は、いじめ解消に関わっている様子が分かり、安心している。「1」という自己評価は低すぎないか。二つ目、三つ目は順調に生徒の育成を図っている様子が、地域活動からも伺える。
協力することの大切さが実感できる生徒を80%以上	4	93.1%の生徒が実感しているが、実感していない生徒の要因を詳細に分析していく。	A	
生徒の有用感、成長感、効力感を90%以上	4	87.6%の生徒が肯定的に感じている。感じていない生徒の要因を詳細に分析していく。	A	
評価のまとめ	重点目標は、ほぼ達成できたと考える。新型コロナウイルス感染症への対応も5類になり、コロナ禍以前の教育活動にしていくなめには、この重点目標は重要なものである。詳細に分析をして、それを踏まえた教育活動が推進できるようにしていく。			

(3) 健やかな体の育成

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> ・体力の向上 ・オリンピック・パラリンピックの「学校2020レガシー」として「パラアスリートとの交流」をして、心のバリアフリーを目指す 			
評価項目 (目標とする成果・指標 %)	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
一校一取組において、保健体育の授業での体づくり運動を毎時間行う	4	体育の授業では毎時間、体づくりの運動を準備体操に入れ、ルーチン化している。今後も継続。	A	どの項目も適切に評価ができてきている。一つ目の項目は、継続は力なりなのではないか、きちんと取り組まれていることを今後も継続してほしい。三つ目の項目で、障害者理解はパラアスリートとの交流以外の方法もあるのではないか。
自己の健康・安全について考えられる生徒を80%	4	88.2%の生徒が考えた学校生活を送っている。保健だよりや保健の授業を生徒に意識させる。	A	
パラアスリートとの交流を1回は実施し、障害者理解を図る	4	2年生で実施でき、1、3年生はパラ競技の体験ができた。全学年との交流は、時間的・予算的な課題がある。	A	
評価のまとめ	重点目標達成に向けての取り組みはできたと考える。その結果、体力向上については、保健体育科の授業で十分な活動時間を取っての指導をしている成果が、学年が進むにつれて出ている。障害者理解については、内容の見直しが必要である。			

(4) 家庭や地域との連携

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の地域の担い手としての育成 地域からの外部人材を活用した教育活動の推進 			
評価項目	自己評価		学校関係者評価	
	評語	現状の分析と改善策	評語	学校運営協議会委員の意見
生徒の地域行事等へのボランティアの参加者を延べ60%	3	46.2%の生徒が地域清掃等へのボランティアに参加している。地域の担い手としての取組等も必要と考える。	A	一つ目の項目は、生徒のライフスタイルの多様化で、地域行事への参加が減少している。三つ目の項目は、参加者が減少しているが、生徒の学習できる機会の選択肢が増えているのは良い事である。必要な生徒に必要なサービスが届いていることは良い。自己評価は低い、生徒の選択肢の一つとして考えてほしい。
生徒の小学校との連携行事の満足度を80%	4	参加生徒の93%が80%以上の満足度がある。とても有効な行事である。	A	
地域未来塾への生徒の延べ参加人数を昨年度より5%以上	1	計画的な開催はできているが、生徒の参加人数が12月段階で昨年度の26%。生徒のニーズや実態にあった運営方針に改善する。	D	
評価のまとめ	<p>生徒の地域の担い手としての育成は、更に、地域との関わりを深めるために地域行事等に参加しやすい仕組みづくりが必要である。また、地域からの外部人材を活用した教育活動の推進は、今後も継続し、徐々に外部人材を増やしていくような取り組みが必要である。</p>			

2 次年度に向けた学校経営の方向性、課題等

<p>(1) 確かな学力の育成</p> <p>1. 学習指導の充実： 学習の振り返り活動は必要不可欠な学習指導だと考える。次年度は、確実に言い、指導と評価の一体化を目指した評価計画を作成したい。</p> <p>(2) 豊かな心の育成</p> <p>1. より良い生徒同士の人間関係の育成： 教育活動の基盤は安心して自分の考えや意見等を表現できる場である。そのためには、生徒同士の良好な人間関係は必要である。次年度も引き続き、重点目標として取り組みたい。</p> <p>(3) 健やかな体の育成</p> <p>1. 体力の向上： ほぼ順調に行われているので、このまま継続して取り組みたい。</p> <p>2. 「パラアスリートとの交流」をして、心のバリアフリーを目指す： 次の段階の取組を考えたい。</p> <p>(4) 家庭や地域との連携</p> <p>1. 生徒の地域の担い手としての育成： 2050年の大人づくりとしての市教委の施策や開かれた教育課程とも関連する。ボランティアとしてだけでなく、総合的な学習の時間等を活用して、地域の課題に取り組めるような仕組みづくりを考えたい。</p> <p>2. 地域からの外部人材を活用した教育活動の推進： 地域未来塾だけでなく、開かれた教育課程の実施のためにも、さらなる連携進められる仕組みづくりを考えたい。</p>
--

以上のとおり報告いたします。

令和6年2月29日

多摩市立諏訪中学校 校長 相楽 敏栄

公印

令和5年度 学校評価書



多摩市立諏訪中学校